

令和7年度北郷中学校区小中一貫校地域説明会の記録

開催日時

令和7年12月17日（水） 午後7時00分開会

開催場所

総合文化会館 菜の花ホール

議事

教育長あいさつ ～小中一貫校化による教育行政の方向性について～ 省略

諸説明

①小中一貫教育の制度とその流れについて 省略

②小中一貫教育がねらう教育的効果について 省略

質疑応答

○一貫校化と人口減少に歯止めがかかることはどうつながるのか。

- ・具体的な根拠を示すことは難しいが、地域に学校がなくなると、子育て世帯は特別な理由がなければ他の土地に引っ越してしまう可能性が高まる。歩いて行けるとところに学校を残すことがその対策につながる。
- ・小規模校が多くなったとしても、少人数で丁寧に質の高い教育を提供できることで各地区に子供を残すことにつながっていると思う。

○一貫校化すると、「小山町の教育の幅が広がる」という認識でよいのか。

- ・教育の幅が広がることを期待している。
- ・「横の連携」では、小学校同士・中学校同士が交流する企画を計画していく。子供同士つながって色々なことを体験し、楽しさを知って、そこから学んでほしい。
- ・「縦の連携」では、上級生が下級生の面倒をみて、優しい気持ちを育む。小学生が中学生へのあこがれをもち、自分が中学生になることに希望をもって学校生活を送ってほしいと思っている。

○今回の制度が始まることで現場の先生方が苦勞することはあるのか。

- ・地域の方の力を借りながら学校を運営していくことで、教職員の働き方改革も進めたい。
- ・たとえば、教員の勤務時間は8時からだが、中には7時に家を出なければいけない子供もいる。地域で朝の散歩をしている方に学校に来てもらい、一緒に登校を見てもらうことを考えている。
- ・他に、教員の空き時間数の調整なども考えている。受け持つ学年や学校種による授業時間数の不均衡を小中学校間の人的交流により解消できる可能性がある。そのようにして教員不足にも対応していきたい。

○来年度以降、理科以外の授業で乗り入れ授業が拡充される予定があるか。

- ・進めていきたいが、乗り入れ授業を実施するには、今後の人事的な配置によるところがあることは承知していただきたい。

○東京に負けない、格差のない教育をどのように進めたいと考えているか。

- ・東京の私立学校の中には学校に必ずALTがいることを謳うところがあるが、小山町ではALTが各学校に配置されている。恵まれた教育環境を作るという点で負けないようにしていきたい。
- ・「非認知能力」と呼ばれる力をつけるために、色々な形で子供たちに地域や仲間と関わり合う実践の場を作ってあげたいと思っている。
- ・これらの取組を現場の先生方の意見を聞きながら進めたい。

○一貫校化しないと学校は残せないのか。

- ・全国でも人口が減少し、小中一貫校は非常に増えている。町の3地区の中で最も子どもの数の多い北郷地区であっても、子供の数は減っていく。（教員数の割り当てが減少しても）小中の先生方が合同で教えられる仕組みを作ることによって学校体制を維持し、地域に学校を残せるようにしていきたい。

○児童生徒数の減少が進んでおり、複式学級という話も出てきた。子どもの数が減っていくのであれば、小中一貫校化しても学校が地域に残るかどうかに影響が出るのではないか。

- ・複式学級にしなくてはならなくなる前に、このような形をとる。入学者がいなければ地区が減びてしまう。そうなる前に、地区を残す対応をしていきたいと思っている。

○学校の統廃合に関して、どこまでを見通しているのか。

- ・それぞれの地域がどのようにして地域を残していくのか、その意志と行動にかけたい。
- ・少なくとも5年や10年で今の体制が変わることはないと思う。
- ・一貫教育は学校存続型としてやっていく。学校があるところに地域が残るという事が大原則であると思っている。ご理解とご協力をいただきたい。

※ALTとは、「Assistant Language Teacher(外国語指導助手)」のことで、主に英語や外国語の授業で担任や英語科教員をサポートし、共に指導を行う教員のことである。

※非認知能力とは、主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う）のことである。